

2006

創立30周年記念誌

協同組合 ユー・エス・ジー

〒920-8203 金沢市鞍月2丁目3番地
TEL(076)267-1185・FAX(076)267-4901
IP Phone 050-2401-7473(OCN)



ユー・エス・ジーの更なる発展

協同組合 ユー・エス・ジー

代表理事 竹田 信夫

協同組合ユーエスジーが創立30周年を迎えることとなりました。本当に月日の経つのは早いものです。我々の先輩であります石川可鍛製鉄(株)、(株)香林鉄工所、竹内歯車製作所(株)、(株)ハマダ、協伸熱処理(株)、(株)丸高製作所の先代社長らが集結し、アメリカインガソールランド社のエアーツール部品の生産を手がけることを目標とし互いに協力をしてユーエスジーを設立されました。

当時のアメリカは我々中小企業にとっては近寄りがたい存在でした。そんな中で我々中小企業の将来を考え、勇気と知恵を持って設立にご尽力されました先輩方には深く感謝の意を表す次第であります。設立時や設立後軌道に乗るまでには大変なご苦勞があったことと思います。

あれから30年が経ち、組合員企業は多いときは40社となりました。インガソールランド社との取引は円高の影響も有り、無くなっていきました。しかし現在は、県外の約60社の企業と取引させていただいています。取引先からの注文も増えており、バブル期以後の2、3年間売上高は落ちましたがコスト削減、品質向上等の改善努力により業績も順調に回復してきました。組合員企業各社の努力はもちろんですが、熱心にご指導くださいました取引先企業にも深く感謝申し上げます。

受注企業にとって発注企業の要望に応える品質と納期の管理が最も重要なことと考えます。組合内では十分に徹底されている企業もありますが、まだまだ不十分な企業もあるのではないかと思います。今後も、組合員に対する教育を推し進めていかなければならないと思います。また新製品の開発に組合として取り組んでいくことも今後の検討課題であると思います。

これからもユーエスジーの発展のため組合員全社が一致団結して進んで行こうではありませんか。中小企業の新しい進路の模範となりましょう。

最後になりましたが、30周年を迎えるにあたり、谷本石川県知事をはじめ石川県産業創出支援機構、石川県中小企業団体中央会、石川県鉄工機電協会その他関係機関の方々そして取引先会社の方々には今日までいろいろとご協力お世話していただき厚く御礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



祝 辞

石川県知事 谷 本 正 憲

協同組合ユー・エス・ジーが、創立30周年の節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴組合は昭和52年に設立され、以来、名称の由来である輸出(U)・振興(S)・グループ(G)に象徴されるとおり、協同組合組織による海外受注という当時としては画期的な受注活動にいち早く取り組まれました。その後も、取引先の開拓や、多品種少量受注への対応、納期や品質管理の徹底など、様々な課題に積極的に取り組まれ、全国でもユニークな異業種共同受注を事業の柱として成長してこられました。

これもひとえに、役員をはじめ関係の皆様のご努力の賜であり、深く敬意を表するものがあります。

我が国は、ようやくバブル期の負の遺産の清算を終え、安定的な経済成長の軌道に乗りつつあります。一方、エネルギー価格の上昇やアジア諸国の追い上げなど依然厳しい状況が続き、また、貴組合の主な取引企業である機械製造業の各メーカーからは品質・納期・価格面での要求はもとより、グリーン調達や知的財産権など様々な対応が求められているとお伺いしております。

こうした中、貴組合におかれましては、会員の皆さんが切磋琢磨され、様々な課題に積極的にチャレンジしていただくことを期待しております。

県、そして私が理事長を務めております(財)石川県産業創出支援機構としても、現場の声に常に耳を傾け、受注企業・発注企業がお互いを高め合う関係として発展できる環境の整備に一層努力してまいります所存です。

最後に、協同組合ユー・エス・ジーの今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

社団法人 石川県鉄工機電協会

会 長 澁 谷 弘 利

協同組合ユー・エス・ジーが組合創立30周年を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。

貴組合は、当初、米国インガソールランド社からの空圧機器部品を受注するために結成されました。30年前、未だ海外との貿易が不安定な中、中小企業のグループが海外との受注を達成するについては口述し難いご苦労があったものと推察されます。組合名称も輸出、振興、グループの頭文字を取って命名されたと仄聞致しております。

組合設立から30年が経過し、当初6社で結成した組織も今日35社となり、受注先・受注量とも大幅に拡大し、組合員企業には今やなくてはならない存在となっております。

この間、組合は数次に亘る不況期を経てまいりましたが、その時々々の歴代理事長の適切な指導により組合員の団結が図られ、荒波を乗り越えてこられたわけです。

近年は受注内容も単品加工からアッセンブリへ、更には受注先へ積極的に提案するなど受注体制を充実させており、そのたくましさは敬服に値します。

何と言っても、日本の経済発展は「モノづくり」に尽きるわけで、他が真似の出来ない、オリジナル、オンリーワンの製品を創って行かなければなりません。

常に3カイ「改善・改革・開発」を実施しなければなりません。

21世紀の日本経済の主役はモノづくりであります。

今日、変化は追い風、そして企業経営の幅が大きく広がる時代とも言われております。

この厳しい変化の対応をチャンスと捉え、世界一のモノづくり技術を持って果敢に未来を見つめ、新たな活路開拓にチャレンジして頂きたいと存じます。

最後に、組合の融和とさらなる飛躍、組合員相互の大同団結をご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



祝 辞

石川県中小企業団体中央会

会 長 五 嶋 耕 太 郎

ここに意義ある創立30周年の慶節を迎えました。

ご同慶の限りであり心からご祝福しお慶び申し上げます。

30年の歩みを回顧するとき、六人という小世帯で発足、当時としては画期的な取り組みである海外企業からの共同受注という未開の分野への挑戦であり、手探りでの船出であったかと思いますが、以来、今日に至るまで弛まない歩みを続け、円高、バブル崩壊、平成不況等、企業存続の危機に瀕した試練は数知れず、組合一丸となって普くこれらを克服しての越し方でもありました。

そこには組合設立の理念のもと、共同受注事業を核に、各種の事業を実施、異業種共同受注技術集団として大きく育ち、他に誇れる経営基盤の構築を見るに至りました。

これも偏に、先人並びに組合員各位の和と努力と研鑽によるものであり、皆々様の永年にわたるご精進に対し深甚の敬意を表する次第であります。

近時、景況は回復過程にあり、産業機械、工作機械はもとより、半導体関連産業も好況を維持しておりますが、ここに来て原油、鋼材、アルミ地金の大幅な高騰等、新たな不安材料も派生しており、先行きは予断を許さず、内外ともに多難な時代を迎えております。

こうした状況下において、地域経済の担い手として産地振興を図っていくためにも、組合主導による更なる合理化とコスト低減はもとより、品質並びに納期管理等の対応が強く求められております。

組合におかれましては、今日まで営々と培われてきた資産を有効に活用され、組合員一同の英知を結集し、新しい時代の潮流に対応し得る体制を整備し、本県経済発展の一翼を担っていただきたいと思ひます。

組合の愈々のご発展と組合員各位のご健勝、ご多幸をお祈りし、お慶びの言葉といたします。



祝 辞

石川県産業創出支援機構

副理事長 齊 藤 直

協同組合ユー・エス・ジー・の創立30周年をお祝い申し上げます。

貴組合は、昭和52年の設立以来、常に「組合員のための受注確保」に尽力され、機械関連業界の中では、異業種の企業を対象に共同受注を行うユニークな協同組合として知られております。

単に、ユニークな協同組合と云うばかりではありません。

永年、共同受注と云う困難な事業に果敢に取り組み、組合員数、事業規模を着実に拡大してきた実績が協同組合活動の模範として高く評価されています。

歴代理事長さんをはじめ、役職員の皆様のご尽力に対し、改めて敬意を表する次第であります。漸く、我が国経済は、バブル崩壊後の長いトンネルを抜け「新しい成長軌道に乗った」といわれるまでに回復して来ました。

待望の景気回復は中小企業に受注機会の拡大をもたらし、業績が大幅に改善した企業も多くなっています。

その一方、原油、原材料の高騰や低水準で推移してきた金利の上昇などの影響を強く受け、経営に苦しむ企業も少なくありません。

貴組合に対する期待は、これからも厳しい状況下に有る企業の経営改善に役立つ「より良い受注の確保」にあり、そのための機能の拡充が待ち望まれております。

当機構としても、引き続き県外優良企業からの受注拡大を図り、貴組合の発展に寄与して行きたいと考えています。

組合活動のさらなる活性化を図り、組合員と本県機械金属工業の発展に益々貢献されんことを祈念し、お祝いの言葉とします。



祝 辞

N.S部

部長 炭 茂 樹

協同組合ユー・エス・ジー創立30周年誠にありがとうございます。

そして私自身、この30周年という大きな節目にN.S部長という縁をいただいたことを大変光栄に思っております。

過去現在の組合の諸先輩方の多大なるご努力、ご苦勞のお陰で一時的な不況を乗り越え、組合各社に現在の活気をもたらしていただきました事を感謝申し上げます。

しかし、世の中では様々な凶悪犯罪、その低年齢化など暗い事件が増えているのが現実です。我々、会社の経営に携わる者であるということは悲しいかな良きにつけ悪きにつけ、常に人に見られていると言う事を意識しておかねばならないと私は思っております。それを一人ひとりが気をつけることによって、仕事も社会も良い方向に向かって進んでくれると信じております。

そして、N.S部が色々な情報交換や意見交換の場であることはもちろん、N.S部員が人間としても大きく成長出来る場となれるように、これからも皆様のご指導を賜り一層の努力をして行こうと思うしだいです。

N.S部役員名簿

青年部役職	氏 名	会 社 名	役 職 名
部 長	炭 茂 樹	(有)炭	専 務
副 部 長	岡 田 等	オカダ合金(株)	社 長
会 計	新 蔵 伸	(株)新蔵鉄工所	専 務
書 記	羽 田 長 稔	(有)羽田鉄工所	社 長
監 査	宮 本 秀 信	(株)宮本鉄工	専 務



お祝の言葉

前理事長 香 林 繁 男

日本を支えている力は製造業といっても過言ではないでしょう。
創立30周年、誠におめでとうございます。

業界に誇れる組合に成長なされたのも、理事長始め役員の方々、組合員の皆様、そして事務局の皆様方の長いご努力の賜物と心から感謝し、敬服申し上げる次第です。

ここに至るまでご指導、ご協力を賜りました鉄工機電協会、振興協会（現、産業創出支援機構）、各種団体の皆様にもお礼申し上げます。

単独での加工に将来の翳りを覚え、異業種での共同受注、図面1枚を頂ければ完成品での納品を目指し、米国インガソールランド社との受注を足掛りとし、6名でこの組合を立ち上げたことが懐かしく思い起こされます。同時にご縁を結んで頂いた、富士精機（株）の川島社長さんのお陰様である事に改めて感謝申し上げます。

グローバルな時代となり、すべてにスピードが要求され、また経済格差も見受けられ、今後ますます厳しい状況も予想されます。が、喜ばしい事に組合員各社も次世代後継者へと順次バトンが渡されております。各社先代の「私の体験」が力強く、感動深く語られる時、製造業の使命である技術の「伝承」と共に新しい「気づき」も芽生えるのではないのでしょうか。情報を取り入れ、組合の成り立ちの基礎と目的を見失うことなく、組合を愛し、商売を愛し、皆様の一致団結、協力を仰ぎ時代に即した組合たらん事を切に願い、更なる発展を衷心より願ってやみません。

薬師寺の大谷徹壮さんより賜わったお言葉をご紹介させて頂き、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

- 一、 オイお前
 本当にいいのか
 ただなんとなくで
- 一、 オイお前
 本当にいいのか
 金のためだけで
- 一、 オイお前
 本当にいいのか
 うぬぼればかりで
- 一、 オイお前
 本当にいいのか
 今の自分で

〈仲良くする事が
いちばん
むずかしい〉

役員紹介



理事長
竹田 信夫
(株)タケダ製作所



副理事長
石丸 義雄
(オカダ合金株)



専務理事
宮本 秀男
(株)宮本鉄工



理事
佳山 数夫
(株)ヨシダセイコー



理事
長 井 勇
(株)ロング



理事
塚本 丈太郎
(株)アイシン鉄工



理事
北川 広和
(株)シンセー



監事
新蔵 正信
(株)新蔵鉄工所



監事
竹内 剛
(株)竹内歯車製作所

事務局紹介



事務局長
大橋 靖 弘

入社年月 平成17年 4 月
担当業務 事務局全般、見積、受注、発注



事務局次長
山根 良 夫

入社年月 平成14年 4 月
担当業務 事務局全般、見積、受注、発注



事務局次長
田中 正 明

入社年月 平成18年11月
担当業務 見積、受注、発注



事務職員
樋本 有 理

入社年月 平成 3 年 2 月
担当業務 経理、庶務、発注



事務職員
牧 美 恵

入社年月 平成 7 年 9 月
担当業務 経理、庶務、発注

風雪の 組合年譜

芽生え

昭和48年～昭和52年

協同組合結成準備期間

発注業者を含む6社が県商工部、県中小企業団体中央会の指導を受けながら協同組合結成に向けて準備した期間である。

昭和48年

2月14日 円、変動相場性へ

アメリカのインガソールランド社の調達会社である日本インガソールランド社を通じて空圧機器部品を受注している丸高製作所（埼玉県）がインガソールランド社の日本出資会社、東京流機機と接渉のあった金沢市内の研磨会社に外注工場を求めて来た。その研磨会社と取り引きのあったのが香林鉄工所、石川可鍛製鉄、竹内歯車製作所である。

12月9日 三木内閣成立

昭和51年



研磨会社が技術上の不備によりインガソールランド社からの受注撤退がよぎなくされた為、各社が個別で受注するという変則体制になっていたが、共同化によって窓口を一体化する一方、品質技術向上、納期管理、国際部品の為の不安定感等を解決する事で長期安定受注を図る事を狙いに組合結成となった。

組合に参加する企業には、熱処理技術で高い評価を得ている富山県の協伸熱処理工業、アルミ鋳造加工のハマダそして発注元である丸高製作所（インガソールランド社の一次下請け）等6社が具体的な生産活動に入ったのが51年前期～52年（前期）の1年間であり、不良率80%という時期もありました。

当初は新機械の導入、製品の一括集中管理（検査、梱包、運送等）を手掛け、出資金は1社の50万円、計300万円とし、賦課金月1万円、1ヶ月売上の7%を専任者（穴田敏明氏、中山忠平氏）の人件費、その他経費にあてた。中山氏は金沢高等学校機械科の出身で、駐米経験もあり、技術的に勿論、英語の図面等に精通し、組合各社にとっては心強い存在であったと言える。

4月6日 2月の失業者 125万人（総理府）

9月9日 毛沢東中国主席死亡

12月5日 衆議院選挙

12月24日 福田内閣成立

風雪の 組合年譜

創 業

出資金各社50万円。

6社で300万円。

賦課金1万円（今日も続けている）

従来の技術からして全く新しい分野で、丁度我が国の工作機械メーカーもNC旋盤マシニングセンター等コンピューター導入による新設備の普及に力を入れた走りの時期である。県内では殆ど設置されておらずその導入は画期的な英断でありました。

新設備として、NC旋盤、マシニングセンター、ホーニング盤、平面、円筒研磨盤等でした。

その他熱処理、研磨工程についても全く経験がなく、更にその受注ロット数が大きく（ロット5000ケ～10,000ケ）、品質確保とその消化対応に連日集まっては協議を重ね、時には徹夜の日も続いた様です。従って6社では消化出来ず組合員以外の企業にも応援を依頼した形になりました。

昭和52年

- 1月13日 51年の企業の倒産は
過去最高15,600件
- 2月 石川可鍛、塩谷社長
米国インガソールランド社訪問

- 5月23日 創立総会
(センチュリープラザ)

- 7月19日 法人設立認可

石油危機に端を発した経済不安は益々深刻化し、企業倒産件数も最高を記録するなど大型不況が続き、物価高、仕事の低迷で産業界をあらゆる面から圧迫し惨たんたる苦境の年でした。この様な事態の中、組合結成は、企業の基盤強化には欠くべからざるものでありました。



風雪の 組合年譜

育成期

昭和53年～昭和55年

序々に良品の納入も出来、国内一メーカー瓜生製作(株)、不二空機(株)、ハッピー精密(株)（現メドテック(株)）三社からの受注に成功

発足当時の6社から昭和53年12月に5社参加して11社となりました。

昭和53年

2月 共同化診断を受ける

8月15日 円高1ドル181円80銭

10月15日～ 5社 訪米



11月 新組合員5社加入
出資金410万円

12月7日 大平内閣発足

技術上不備、品質面のトラブルは組合結成後も続発、その為、県の共同化診断（第一号）を受け、中央会の指導や工業試験場の生産技術面での改善指導、更に組合の勉強会・講習会と日夜あかさぬ努力が続けられ、共同受注体制を着々と強固なものにしていった。

丸高製作所・石川可鍛製鉄、竹内歯車製作所、香林鉄工所の各社長、並びに協伸熱処理工業の井沢氏が米国インガソールランド社の各工場を2週間に渡り視察し、日米相互訪問の直接話し合いにより、信頼感が増し、仕事も少しずつスムーズに流れる様になった。又国内の空圧機器メーカー瓜生製作(株)・不二空機(株)・日東工器・メドテック（旧称ハッピー精密）からもインガソールランド社の取り引きで培われた技術を生かせる仕事が月300万円程入り始め、その成果が着々と出始めている。（組合売上高20%に相当）

新組合員（西研精機製作所・岡田研磨・新蔵鉄工所・羽田鉄工所・竹田鉄工所）5社加入、出資金410万円に増加

昭和54年

4月 石川県技術振興展に初めて出品

6月28日 東京サミット開催

12月25日 組合員総数11社
売上高 計 6,650万円/年



昭和55年

- 2月13日 10日間の台湾研修旅行実施
(13名参加)
- 4月 石川県技術振興展に出品
- 7月17日 鈴木内閣成立
- 9月1日 越中八尾「風の盆」にて懇親会



技術研修活動成果の評価を受け、金沢市長より表彰を受ける。

風雪の 組合年譜

発展期

昭和56年～昭和60年(5年間)

円高加速時代

組合事務所も宇ノ気移転。事務局長に山本浩一が就任。組織整備、受注体制の検討に力を入れる。組合員は、更に増加して18社に拡張。発注企業も組合員から消え、健全な組合体制が確立され、空圧機器以外の産業機械の部品加工の受注にも広げ、共同受注体制を確立して新規受注開拓に、県中小企業振興協会の協力を得ながら、取引先が14社にもなり売上額も年3億を達成した。(国内受注率60%)

昭和56年

- 6月 事務局長に山本浩一就任
- 7月 事務所・宇ノ気へ移転
- 8月17日～ 第3回 訪米



11月6日インガソールランド社より2名来沢

5月22日、通常総会の理事長の挨拶を引用すれば「組合の状況も現段階で一応目安もついたので、今後は組合運営に積極的に力を注ぎたいと考えている。」と発言があり、組合としても初めての配当をした。全額出資金振替で出資総額744万円となる。



昭和57年

- 5月12日 技術振興展出品
- 9月2日 工場見学会実施（中央可鍛工業・大隈鉄工・34名参加）
- 11月27日 中曽根内閣成立

事務所、宇ノ気移転に伴い事務局も中山氏より山本氏へ交替、インガソールランド社の仕事も窓口を一体化し組合を通じて注文書を貰い、支払いをする体制に切り替わった。FAXの導入も業界に先がけてなされ、売上高も一躍年2億3千万円に上昇、インガソールランド社に対する売上高も最高になる。

昭和58年

- 2月9日 中小企業振興協会との懇談会（12名参加）
- 3月30日 新組合員6社加入
出資金841万円
- 5月13日 技術振興展出品



- 9月24日 研修旅行（森精機）

インガソールランド社の仕事とは別に国内的には内需の低迷が続き、57年は世界景気も停滞、58年迄低調に推移した、企業倒産も史上最高を記録するなど厳しい状況下にあった。組合内でもインガソールランド社の仕事が下降して来た現実から、他の産業への受注論議もされ、「インガソールランド社の仕事がなくなる以上組合結成の意義もなくなるので解散したら。」と言う意見さえ出た事もあった。この危機を乗り越えるため、具体的には不二越の繊維機械部品・大東精機の工作機械部品（中小企業振興協会紹介）の受注に成功し空圧機器以外の仕事に進出し、その比率も48%に到達、組合員も空圧機器から他産業部品の展開で異業種企業の参加がもたらされ、どんな需要にも応えられる異業種グループへと脱皮していった。

58年3月現在、6社（吉田製作所・シンセイ・タケダ製作所・沖野鉄工・越田鉄工・マサキ製作所）の新規加入を得、17社となり出資金も841万円になる。

昭和59年

- 5月18日 技術振興展出品
- 6月2日 事務所、鉄工会館内に移転
- 8月1日 神戸製鋼所と取引開始
- 8月2日 (株)ハマダ脱退
- 9月18日 兵神装備と取引開始
- 10月27日 研修旅行（大阪機工、日研工業）
- 11月1日 新札発行
- 11月13日 第4回 訪米

新しい取引先が増え、インガソールランド社及び国内空圧機器メーカーの受注も回復して来た。11月13日より第4回目の訪米、石川可鍛・オカダ合金両社長が通訳無しで渡米。

アメリカの景気拡大とドル高による輸出増加に支えられ巨大な貿易黒字を突出させ、対外経済摩擦が激化集中砲火をあびた。

昭和60年

- 4月8日 事務職員に東川陽子就任
- 4月16日 技術振興展出品（石川可鍛製鉄、西研精機製作所表彰）新組合員3社加入
- 5月25日 丸高製作所脱退 出資金645万円

空圧機器メーカーの日本ニューマチック工業(株)・サンレー冷熱(株)と取引開始。女子事務職員も就任し、新規組合員（改田鉄工所、中光製作所、東陽技研）3社の加入により売上高も年3億5千万円に到達した。この年、組合結成より何かと力になり組合運営に手を貸して頂いた丸高製作所が脱会された。

風雪の 組合年譜

拡張期

昭和61年～平成3年(6年間)

受注活動も軌道にのり、組合員数も24社に拡大、夫婦同伴の研修旅行も計画。組合企業の設備も増加し、組合の最成長期を迎えた。次世代の後継育成を考慮し、青年部N.S部 (Next STEP) を結成。更なる発展を計る。平成3年11月には結成15周年の記念行事が盛大に行われた。売上額約6億を達成した。

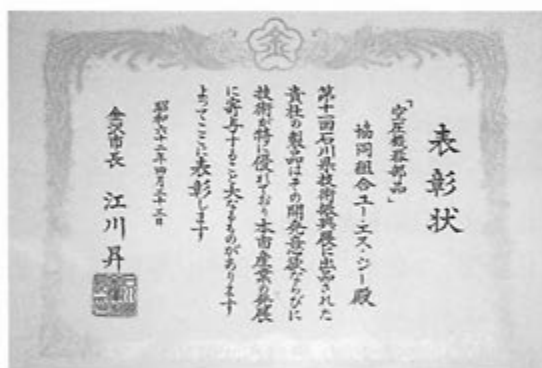
昭和61年

- 4月1日 北陸鋳物協業組合新規加入
- 6月20日 北海道研修旅行
- 8月20日 円1ドル=152円台の最高値

組合研修旅行もこの年から社長夫婦参加の親睦を中心にした行事に変更となる。

昭和62年

- 4月20日 技術振興展出品（奨励賞受賞）
- 6月26日 ゴルフ大会（能登カントリー）
- 9月26日～ 北九州研修旅行
- 10月19日 米国市場 株価史上最大の暴落（ブラックマンデー）
- 11月6日 竹下内閣成立



組合結成以来10年を経過したこの年には三菱重工業(株)名古屋機器製作所・ダイハツディーゼル(株)・(株)モリタ製作所・日本マイヤー(株)・山崎鉄工等に受注も拡大し組合員も創立以来14社の加入を数え20社、出資金866万円となる。

昭和63年

- 4月1日 オカダ合金・本江鉄工所組合へ加入
- 4月22日 技術交流展出品
- 9月17日 ソウル五輪開催
- 10月28日 東北研修旅行

広瀬バルブ工業(株)・ニチロ工業(株)・(株)アマダワシノ・(株)マツムロ・日新電機株等のユーザーが増えた。

昭和史の最後になった年でもあった。

社長夫婦同伴の研修旅行も第2回を実施、紅葉深い八甲山山麓を廻り十和田湖、盛岡、仙台と実のある行事として定例化した。

平成元年

- 4月1日 出雲鉄工・山本工作所 組合に加入
出資金1,020万円
- 4月21日 技術交流展出品
- 5月29日 石川県中小企業団体中央会より業界の振興発展を評価され表彰を受ける。
- 6月6日 パーソナル・コンピューター導入
- 10月20日 ゴルフ大会
- 11月21日 四国研修旅行
- 11月25日 ゴルフ大会 青年部結成懇談会



平成年代に入っても引き続き好景気で組合もパーソナル・コンピューターを導入し売上も年商5億円を確保、益々拡大の道を歩む事となる。年号が平成、組合も結成10余年、絶えざる努力を重ね苦難を乗り越え今日の組合に育て上げた。各組員も後継者育成に力を入れる年令に達しており、それぞれの企業での二世後継者も成長、第一線で活躍している。



平成2年

- 1月27日 青年部創立（N.S部と名付ける）
- 4月1日 YK機工 組合に加入
- 4月14日 技術交流展出品
- 5月1日 事務職員小池田明子就任
- 12月30日 事務職員東川洋子退職

新年会を兼ねて（後継者育成の為）N.S部（Next Step）を結成、N.S部の結成を期に更なる拡大発展を計る。初代部長に石川可鍛製鉄㈱の塩谷哲生、副部長にタケダ製作所の竹田祐治、書記に香林洋二郎、会計に改田誠を選出し、立ち上がりの基礎を固めました。

平成3年

- 2月1日 事務職員吉倉有理就任
- 3月1日 事務職員木谷礼子就任
- 3月31日 事務職員小池田明子退職
- 4月12日 技術交流展出品
- 10月10日 香港研修旅行
- 11月7日 記念式典
- 11月30日 N.S部組員各企業見学会
- 3月31日 YK機工退会（社長死去）

本年2月から女子事務職員も、二名となり、更なる発展の為の事務局の充実が計られた。

事務内容は、受注窓口として見積業務、受注後の各企業への手配、一部素材手配、進行納期チェック、納品伝票、検収チェック、クレーム対策、技術指導、支払業務、決算事務、その他研修会、各種会議の準備等、事務局というより一会社組織の全ての業務が集中している様である。開かれた事務局、明るい事務局として、各組員が集まり易い場所として、環境にもめぐまれた石川県の産業振興ゾーンの中の鉄工会館で、今日も活動している。

15周年を迎えるこの年に、組員24社、出資金1,555万円、売上、年6億円に成長。

61年は北海道、62年、北九州、そして東北、四国、南九州と重ねてきた研修旅行も本年は15周年記念行事として初めて海外（香港）へと足を延ばした。



記念式典は駅前ホリデイ・イン金沢にて 県機関団体関係者、銀行、取引先を含め、総員80名の参加で盛大に挙行、翌日には取引先を含めた懇親ゴルフ大会を開催して交流を深めました。

風雪の 組合年譜

苦難期

平成4年～平成8年(5年間)

バブル崩壊後、発注メーカーのリストラが進み単価の引下げ、生産ロットの縮小、短納期、纏め発注、更にPL法の実施により高度の品質保証が求められ組合として苦難の期でありました。纏め発注と多種少量受注の体制確保のため零細企業を中心として機械加工、板金溶接、塗装等の異業種組合員、少数型込、600m/m以上の外経切削、1,000m/m以上の長尺切削加工の組合員等、特色ある企業の参加により組合員37名となりました。又、組合員外発注による売上額は20社で約10%を占めた状況です。

平成4年

- 4月1日 浅田合金、金沢スプリング、シノハラ、タイジュ工業、中田工業所、東川鉄工所、森テック、ヨシダ溶工、米泉鉄工所の9社が組合に加入。32社となる。
- 5月15日 YKK工機部 見学会
- 5月17日 ゴルフ大会
- 5月28日 技術交流展出品
- 2月1日 事務局2階から3階へ移転

不況時には、受注内容も技術の高度化と今迄にない種類のものも多く、少量試作工事部品の増加で従来の組織組合員の設備内容では消化出来ず、新組合員の強化が計られました。

平成5年

- 4月1日 (株)アイシン鉄工 組合加入
- 4月2日 NS部大昭和精機、研修旅行
- 4月16日 中小企業技術交流展に出品
- 5月30日 ゴルフ大会
- 7月18日 細川内閣誕生
- 9月5日 ボーリング大会
- 10月1日 事務局員灘地進就任
- 10月8日 中国研修旅行
- 11月30日 事務職員 四辻礼子(旧姓 木谷)退任
- 1月21日 電話回線増設



平成6年

- 4月1日 浅田合金退会
研修旅行 中国
- 6月2日 中小企業技術交流展参加
1ドル80円を割る
- 6月30日 村山内閣誕生
- 7月27日 タイジュ工業退会（社長死去）
中央会表彰
竹田信夫、佳山数夫、西野茂
組合役員十年勤続
- 1月17日 関西大震災
オウム真理教地下鉄サリン事件
- 3月27日 谷本知事誕生



ますます取引先のリストラが進み、海外発注による受注停止、20%～30%の単価値下げと、発注ロットの縮小等苦難の年で、新規受注開拓と全く八方ふさがりの日々が続き、本当に苦難の年でした。



平成7年

- 4月1日 新組合員参加
ロング
大和铸造所
サカタテック
- 4月21日～24日
中小企業技術交流展出品
- 7月7日 NS部 ポリテクセンター
研修会
- 9月1日 事務職員 牧 美恵就任

取引先の纏め発注と試作開発部品（少量生産）が多く、100枚から200枚の図面の見積もりが増え、組合として削り機械加工部門だけでは消化出来ず、板金、プレス、樹脂加工、溶接部門、少量铸造部門が必要となり3社の新規組合員が加入されました。

11月1日～4日

シンガポール研修旅行

11月30日 ダイハツディーゼル株より品質目
標達成の映ある表彰を受ける。



平成8年

4月1日 塗装工業なかばやし新規加入

6月1日 新規組合員加入

越本鉄工

サンキ工業

11月8日 第2次橋本内閣発足

11月22日 創立20周年記念式典

昨年より前田機械の長尺ロール類の加工と外径600m/m以上の機械加工及び東洋精密造機や村上製作所等から見積もり依頼があり、その受注に成功、越本鉄工、サンキ工業が組合員として今後活動してもらえる様になりました。

バブル崩壊後この5年間、協同組合としては苦難の期でありました。

この5年間で死去した社長5人を含め、12人（組織員構成の1/3）の社長が世代交替しており、組合退会も3社（創立より7社となる）と大きな転期にあります。若返った後継者の組合認識にも大きなずれが見られました。

組合創立の苦労も、今迄の組合を育てるという精神も乏しく、単に組合賦課金と組合からの仕事量を天秤にかけ損得を云々したり、少量生産、短納期への協力。納期遅延、不良、クレームへの迅速対応等連帯感が弱く困る場合が多々ありました。しかしながら受注減少に対して、ひたすら業界の流れにながされまいと中小企業、零細企業が肩を寄せ合い協力して必死に頑張ってきました。景気も漸くゆるやかながら、回復の方向といわれています。

多種少量生産、継続性の乏しい受注品、厳しい単価、短納期、高品質、高技術を求められている現況に、今後も頑張っていかなばなりません。

20周年の節目に、今一度協同組合ユー・エス・ジーを見直し、明日への展望と方針を確認し更なる前進に希望をもちたいものです。

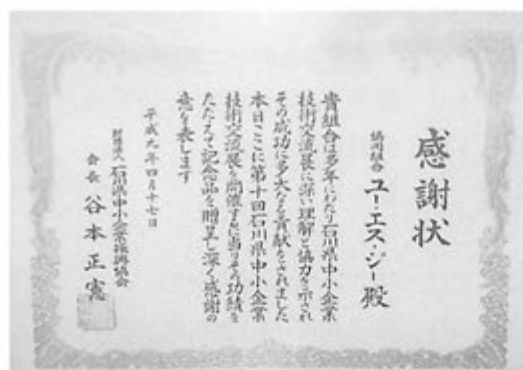
平成9年

- 4月 消費税が3%から5%に引き上げられた。
週労働時間40時間の制定
南米ペルー、リマで日本大使館をゲリラが占拠したが、武力行使で解決した。
- 4月17～20日 第10回石川県中小企業技術交流展出品
連続出品が評価され、石川県より感謝状を受ける。
- 8月5日 和歌山県共同受注グループ設立準備会へ運営のアドバイス、懇談会開催
- 8月26日 石川県寺井商工会より異業種共同受注活動の説明会依頼を受ける。
- 10月9～13日 U・S・G組合員27名参加でのハワイ海外研修会の開催される
- 11月28日 香川県商工会代表団と、異業種共同受注での運営、組織など説明会開催
- 11月29日 ダイハツディーゼルより、品質管理研修会にて品質目標を達成で表彰を受ける。

よくなる、よくなる桜の咲く頃は……もみじの季節になれどずるずると景気の低迷の続く一方、大企業のリストラもどんどん進み、窓口担当が若返り、合理的な纏め発注が増加の傾向となり、その対応として、弊社の異業種協同組合組織が話題となり、全国的に注目を集めました。

ただ、残念な事にいずれの団体も、1年以上の継続はなかったとの報告が有りました。

憧れのハワイ研修旅行も、27名の参加で親睦を深めました。



平成10年

4月1日 U・S・G組合員企業のタケダ製作所は、新開拓製品「ホールマン」事業を組合員企業の協力と参加を得て事業の発足準備の運びとなった。

4月16～19日

第11回石川県中小企業技術交流展
出品

タケダ製作所出品ホールマンと重ね5コマと目立った一隅を飾り注目された。

7月17日 石川県より、「受注開拓ローラー作戦」発足、受注拡大を目的に組合事務局に要員の派遣と、委員の委託を受ける。

9月10～18日

受注開拓ローラー作戦開始
関西地区を中心に、県振興協会、受注開拓アドバイザー同行で会社訪問

10月6～7日

受注開拓ローラー作戦 京都・滋賀方面会社訪問

11月1日 堂谷 雄幸氏入社

事務局の運営を強化。

平成11年1月

欧州単一通貨ユーロが誕生

1月21日 地域高度技能活用推進事業よりU・S・G「マンホール製作研究会」に助成金支給の認定を受ける。

大企業の個々のリストラから、全産業界の企業合同・合併が進められ、日本の産業構造が大きく変革されました。一方私達の業界では受注が減少し、不安な日々の毎日でした。

石川県としても、中小企業振興協会を中心に受注拡大の為の要員を県内大手企業から出向して貰い、受注開拓ローラー作戦として予算を計上、本年下半年より活動を開始致しました。

U・S・G事務局、灘地 進もその一員としてこの活動に参画、新規受注先の開拓に努力致しました。

組合事務局も11月1日より、堂谷雄幸を迎え、ホールマンの新製品創設の地域高度技能活用推進事業申請を行い、その補助金事業を兼ねて、受注拡大の為の事務局強化を計りました。



平成11年

- 4月15～18日 第12回石川県中小企業技術交流展出品参加
- 6月 失業率 過去最悪を記録する。
- 7月13～14日 事務局パソコンの導入
地域高度技能活用推進事業による講習を受ける。
- 10月1日 地域高度技能活用推進事業の技術研修活動で、ダイハツディーゼル、東レ・エンジニアリング社の工場見学実施される。
- 11月 石川県庁、新庁舎起工
- 3月21日 調節式マンホール「ホールマン」が、下水道新技術推進機構より、技術審査証明認証を受ける。
- 3月31日 塗装工場 なかばやし(株)退会(社長交替による)

景気浮揚政策をうたい文句に全く効果のない振興券が交付され、経済再生小渕内閣が誕生しました。が、私達を取り巻く状況は全く変化がなく、多種少量、低単価、短納期の改善はなく、益々悪く、苦難の年となりました。従来より、多種少量生産に協力して頂いていた(株)奥村鉄工所、シーマテック(株)、(株)サンキの3企業の組合加入が内定、総員39社の大所帯となりました。

平成12年

- 4月1日 (株)サンキ・(株)奥村鉄工所・シーマテック(株)・(株)炭の4社が正式に、U・S・G組合員の加入となる。
森内閣のスタート
- 4月20～22日 第13回石川県中小企業技術交流展出品参加
- 5月 沖縄サミット開幕
- 9月26日 神戸製鋼所 品質管理実態報告・改善指導研修 8社参加
- 11月6日 ダイハツディーゼルより、原価低減優秀賞を受賞する。
- 12月14日 東京方面受注開拓(住友重機械工業・八王子)訪問
- 1月15日 豪雪にて交通機関混乱
- 3月10日 竹田理事長、中国上海・蘇州の経済視察団団長で、中国訪問

信用保証協会保証の政府借入金制度の導入で、何とか中小企業倒産、閉鎖が延長され、景気の回復を期待致しましたが、一向にその風は吹かず限界となり、倒産数、失業者数もかつてない数を記録して、尚、前途不安の要素は消えてはいません。U・S・Gも、必死の努力と、皆様方の御協力を得て売り上げ目標を達成致しました。



25年前6名で発足した私達組合は今や40名を数える大所帯となりました。自他共に許す異業種共同受注集団として発展してきましたが、2001年、25周年の節目を境として、内外共大きな転換を余儀なくされています。

世代交換の波は物故社長8名を始めとして、17名となり、企業を中心の管理についても二代目後継者が力を持ち、若い世代となっています。加工設備内容についても、数値制御マシンが主体をなしております。

発注メーカーについても、窓口担当が若くなり仕事内容から見ても高品質・短納期試作新製品が発注され、新素材の選択、加工精度等高品質が要求されています。

技術の研鑽と的確な管理体制の確立を目ざし、企業の存亡をかけ2001年を境として新世紀に向け、希望をもって、努力を重ねようではありませんか。

風雪の 組合年譜

転換期

長期閉塞的な景気、経済を始めあらゆる産業が海外よりの輸入品に押され、日本は失業者の増大、企業の倒産。資源の少ない日本が物造りを止めてどうなるのか不安な見通しのない転機に立たされています。

平成13年

- 4月1日 組合新規加入 (株)宮本鉄工
(小物から大物までの旋削加工を中心とした同社の加入は、期待大)
- 4月 小泉内閣 誕生
- 4月19～20日 第14回石川県中小企業技術交流展
出品参加
- 5月25日 (協)ユー・エス・ジー定例総会・
創立25周年式典

「構造改革なくして、景気回復なし」と華々しく発足した小泉内閣も、政府が積極的財政に転ずる可能性が低く、県内外企業の相次ぐ事業の停止、大企業でも、生産調整の為に長期休暇など低調な経済状態が続きました。

U・S・Gも、従来よりの取引先の注文も先細り気味で、新規開拓へ隣県、中京地区等へ積極的に向向しましたが、十分な成果の見られない苦しい1年でもありました。

6・7・10月

高松、金沢地区別で4回（7日間）
のパソコン講習会の開催をする。
（事務局員、組合員多数参加しレベ
ル向上に貢献した。）

7月31日 堂谷事務局次長 退社

10月24～27日

中国大連地域経済視察調査
（日本よりの中国進出企業の見学、
現状調査を目的とした視察団）

11月1～4日

U・S・G 海外研修旅行
中国・ハニウエール社他工場見学
（上海・西安等を中心に、U・S・G組合
員企業の石川可鍛製鉄株中国合弁
工場・石川可鍛トレーディング株
表敬訪問・見学も含まれた。）



平成14年

- 4月1日 石川県振興協会（現・石川県産業創出支援機構）より事務局次長として山根良夫入社
（県外企業との交流を、より深める為の、県からの支援体制の強化）
- 4月3日 中京地区新規受注開拓キャラバン
- 4月12日 芙蓉機械債権者会議出席（民事再生法説明会）
（同社倒産で、一時は負債を生ずるが、関連企業との関係が深まり今日、従来以上の受注を継続している、災い転じて福）
- 4月18～20日
第15回石川県中小企業技術交流展
出品参加
- 5月29日 （協）ユー・エス・ジー定例総会
- 7月31日 中京地区新規受注開拓が実り、初納品（新東工業・プラステックカンパニー）
（当初、カバー類の数点が、100～200万円/月の有力受注企業へ）
- 10月21日 富山地区受注開拓
（新規1社・継続拡大2社となる）
- 11月18日 石川県受注懇談会出席（東京地区）

自動車関連は好調、半導体関連なども多少の変動は有るものの、回復基調で、少しずつ経済状態に明るい兆しが見えて来つつあります。

反面、りそな銀行への公的資金援助、生命保険会社の危機などに加え、新型肝炎、SARSの流行と、上向きな日本経済状態を根本から覆すような出来事が日常茶飯事のように新聞紙上や、テレビで流れた年となりました。



平成15年

- 4月10～12日
第16回石川県中小企業技術交流展
出品参加
- 5月13日 愛知県新規受注開拓先訪問
受注開始
- 5月30日 (協)ユー・エス・ジー定例総会
(売上高、昨年度より1.2億円増な
どの報告)
- 6月27日 富山地区、新規開拓キャラバン
(YKK他)
- 8月21～22日
神戸製鋼所 品質管理勉強会(事
務局他、組合員6社参加)
- 8月31日 山本事務局長退社(長年の功績は、
多大なものでした)
- 9月1日 灘地 進氏 事務局長に就任
- 9月10～11日
税務調査(余りのきめ細かさに、
不具合もなく無事終了する)
- 9月24～25日
N.S部(U・S・G青年部)神戸
製鋼所工場見学・研修会
(日頃、自分が製作している部品の
使用目的が判り感嘆の声有り)
- 11月17～18日
石川県受注懇談会参加(名古屋地区)
(日頃、取引のあるユーザーの顔も
見られ、盛会な懇談会でした)
- 1月8～9日
滋賀、奈良方面受注拡大キャラバン
- 3月16日 名古屋地区 受注拡大キャラバン

相変わらず好調な自動車関連、それに引きずられて産業機械、半導体関連など1部の繊維機械以外は上向きで、リストラなどで従来より小さくなった加工先を、先を争っての奪い合い、更に後半は、鉄、非鉄を問わず大幅な材料費の高騰で、仕事量には問題はないが、納期遅れ、不具合対応での客先への出張、打合せに時間をとられ且つ、ステンレス材の値上げによる価額改訂交渉等で、事務局は残業、休日出勤を余儀なくされました。忙しさにまかせて普段ユーザーとのコンタクトは電話のみでの対応が多く交渉時スムーズにいかない場面が多く課題が残りました。

平成16年

- 4月15～17日 第17回石川県中小企業技術交流展
出品参加
- 5月25日 中央会表彰
石川県知事表彰（組合功労者）
竹田 信夫
中央会会長表彰（優良専従職員）
樋本 有理
- 5月28日 (協)ユー・エス・ジー定例総会
- 6月3日 ダイハツディーゼル品質指導（事務局、組合員企業5社参加）
- 8月11日 アテネ五輪開催
- 10月29日 神戸製鋼所 増産による納期面での打合せ
- 11月30日 灘地事務局長 体調不良により退社
- 12月14日 (株)橋本合金新規組合加入
(アルミ合金鑄造会社が、2社となり受け皿が大きくなりました。)
- 1月20日 大橋靖弘入社 事務局長に就任
- 2月15日 富山地区・取引先新規開発部品の試作より協力体制を確立。
- 3月31日 石川熱処理工業(株) (株)越本鉄工退会

自動車、建設機械関連など史上最高益を達成する等の明るい話題の多い経済状態の年でした。

しかし、原油の大幅な値上り、中国の需要の拡大により、生産資材の大幅な値上りと、材料の品薄状況が顕著に現れて来ており、大手企業でも生産に支障が出る状況でした。

鋼材も、16年4月、6月、10月、12月と小刻みの改訂があり17年3月更に大幅な値上げがありました。

平成17年

5月19～21日

第18回石川県中小企業技術交流展
出品参加

5月27日 (協)ユー・エス・ジー定例総会
(売上高は横ばいなるも、好調な受注状況の報告)

7月6日 神戸製鋼所・オンライン手配打合せ

8月23日 株サンテック(滋賀県)新規取引
開始

9月2～4日 研修旅行(北海道・知床半島
など)

(家族ぐるみでの、ふれあいの多い
楽しい研修旅行でした)

11月7日 古河産機システムズ株 新規受注
開始

11月8～9日

先進工場見学会参加(県機電協会：
長野方面3社)

11月21日 石川県中小企業団体中央会50周年
式典

11月30日 株共栄社 新規受注開始

1月26日 名古屋地区新規開拓(県産業創出
支援機構担当者同行)

2月10日 トリノ五輪開催

3月22日 神戸製鋼所ジャスト・イン・タイム
説明会

3月31日 改田鉄工所退会

一昨年来よりの日本経済の好況感は、ほぼ、全産業
で安定していました。

鋼材関係の値上りは、高値での安定ですが、アルミ
合金がアルミ地金の高騰で急激な値上がりがあり、銅合
金に至っては、日替りメニューの感があり、混乱を極
めました。

ROHS指令によるグリーン調達や、オンライン手
配なども増えつつある1年でした。



平成18年度 活動方針

材料の価格高騰も、鋼材関係が高水準での維持で、ホット息をつく暇もなく、アルミ関係がここに来て大幅なアルミ地金高騰のあおりから銅合金と共に値上がりが続いています。

大半の企業は、昨年同様に注文残を抱え、納期面での苦勞が絶えない状況と思われます。

然しながら、ここにきて一部の企業では、材料、素材の供給遅れ等の問題や、品質面でのトラブルなどから仕事量が激減し、厳しい状況の企業が出てくるなど両極端な現象が見られます。

安定した仕事量の確保の為に、日々の努力の積み重ねが大切と考えます。

1. 売上 目標

市況の好調に支えられ、今年度の売上目標を、4億8千万円、1ヶ月当たり4千万円とします。

売上げ目標達成に、皆様方の絶大な御協力をお願い申し上げます。

2. 受注能力の向上

本年度から、(協)ユー・エス・ジー組合員の退会が2社あります。

組合員数が少なくなり、当然、受け皿も小さくなりますが、(協)ユー・エス・ジーの創立30周年の記念の年でもあり、こんな時にこそ皆様方の絶大な御協力を頂き、どんな注文にも応えられるような強力な異業種共同受注の特性を生かした、組織の充実をはかり、受注能力の向上に邁進したいと考えます。

当然のことですが、客先は、加工先の事情よりは、客先の思惑で、短納期、低価格、高品質を要求して来る事は目に見えています。

これらの客先の無理な要求にも耐えられるような品質、納期管理、改善提案によるアピール等での企業の体力強化は、受注能力の向上に必ず結びつくはずで

3. 新規受注企業の開拓

昨年度は、長年継続的に取引を頂いている客先よりの注文がかなり伸びて来た事や、単発では有りますが200万円~300万円の大口での注文が有り、売上げの増大に大きく寄与しています。

然しながら、今年度は昨年度の様な大口の期待をするには若干の無理が考えられ、従来よりの客先の方も昨年以上の伸びを期待するのは厳しい状況といえます。

県産業支援機構殿等の御協力を頂き、リピート性の有る新規受注企業の開拓に努めます。

4. 不良防止と納期管理の厳守

昨年度も、残念な事に大口の客先より品質監査、指導が有りました。

さらに、神戸製鋼所では、本年度より「ジャスト・イン・タイム」のキャッチフレーズでの納期管理の徹底を促す方針が強力な要請の中で実施されることが決まっています。

納期、品質は、製造業を営むものにとって、その会社の「顔」と言われています。

作業の標準化、QC工程表の整備、工程管理の充実をはかり、全くの無駄金と言える、不良の撲滅と、納期管理の徹底を強く要望いたします。

5. (協)ユー・エス・ジー創立30周年記念行事の実施

異業種共同受注という全国でも唯一つの、ユニークな組織での創立30周年は非常に貴重です。

本年、11月に記念式典と、(協)ユー・エス・ジーの組合員企業の紹介を主体とし、組合事業の実態と活動の足跡を、5年毎に更新している「創立30周年記念誌」の発行を予定しています。

組合員各位殿の絶大な御協力をお願いする次第です。

平成18年

- 4月5日 奈良地区新規開発機種製作打合せ
5月12日 ダイハツディーゼル(株)守山工場見学会
株オカダ合金主催で、先端技術、品質管理など指導頂く
5月18~20日
第19回石川県中小企業技術交流展
出品参加
5月26日 (協)ユー・エス・ジー定例総会
(昨年度、売上目標を7,000万円上回る、5億2,000万円弱の報告)
5月29日 中央会表彰
石川県知事表彰(組合功労者)
佳山 数夫、西野 茂
6月30日 中光製作所退会(廃業による)
7月18~19日
古川製作所(広島県)来社・新規受注活動開始
7月31日 マサキ製作所退会(廃業による)
9月27日 安倍内閣発足
9月30日 株シノハラ退会
11月1日 田中正明入社 事務局次長就任
11月17日 組合創立30周年記念式典開催
〔金沢スカイホテル〕

国外では内戦や、国内でも幾多の悲しい事件の増大、人と人の争いはなくしたいものです。

協同組合 ユー・エス・ジーは、本年度で創立30周年を迎える事が出来ました。

全国でも例のない、異業種協同受注活動を30年もの永きに渡る継続は賞賛に値します。

いつも暖かく御指導を頂ける県外ユーザー、影になり、日向になり御援助頂ける県関係団体の御支援、更には、大らかで、多少の利害関係には拘らない、石川県民の県民性が上手くマッチした結果ではないでしょうか。

今後、更なる発展の為、関係各位様の多大な御支援を賜ります事をお願い申し上げます。



協同組合ユー・エス・ジーが昭和52年5月創立総会を開催し、正式に発足して丁度30年になりました。組合員の総意により記念誌の発行、記念式典の実施を5月の理事会で決定し準備にかけました。ここ5年の間事務局の人員の交代、記録の欠如等が見受けられましたが古い書類をひも解いて何とか記念誌をまとめました。又、11月17日には組合員53名それに来賓、事務局を加えて総勢70人が参集して金沢スカイホテル18階トップオブ金沢にて盛大に記念式典を開催しました。当日は式典実行委員長宮本専務理事の開式のことばからはじまり、続いて竹田理事長の挨拶、来賓として多忙の中出席していただいた中央会会長五嶋氏、産業創出支援機構副理事長齊藤氏、鉄工機電協会専務理事藤森氏、はじめ支援機構の実行部隊、組合前理事長香林氏の祝辞等を頂きました。引き続き祝宴に移り組合員相互の親睦を深めました。



金沢スカイホテルの18階トップオブ金沢にて30周年記念式典を実施しました。
70人の出席がありました。



開式のことばを述べる宮本式典実行委員長



竹田理事長による挨拶



五嶋中小企業団体中央会会長



藤森鉄工機電協会専務理事



香林前理事長

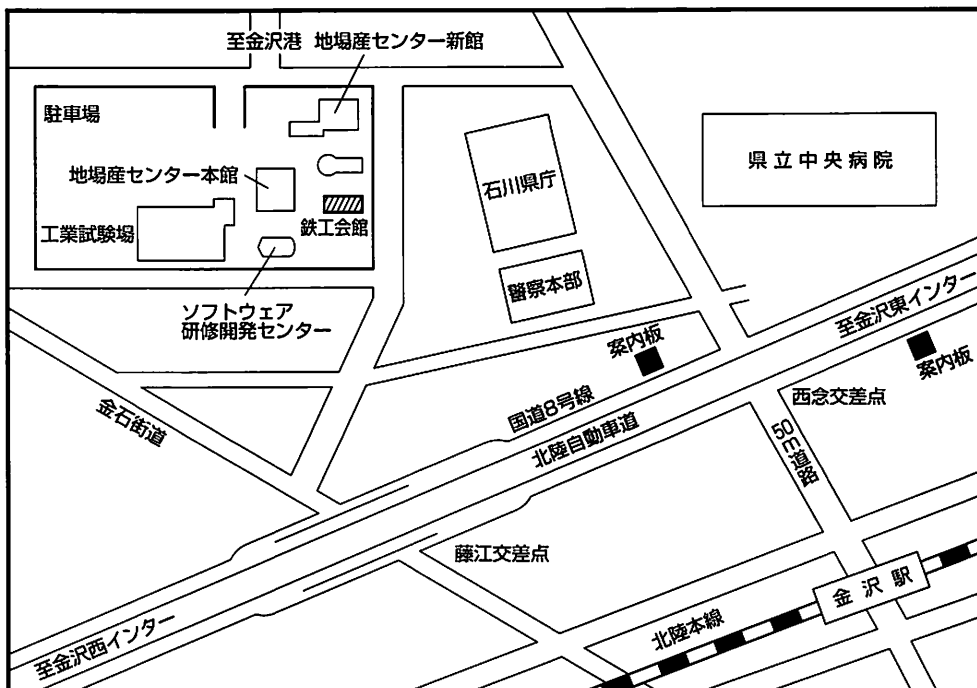
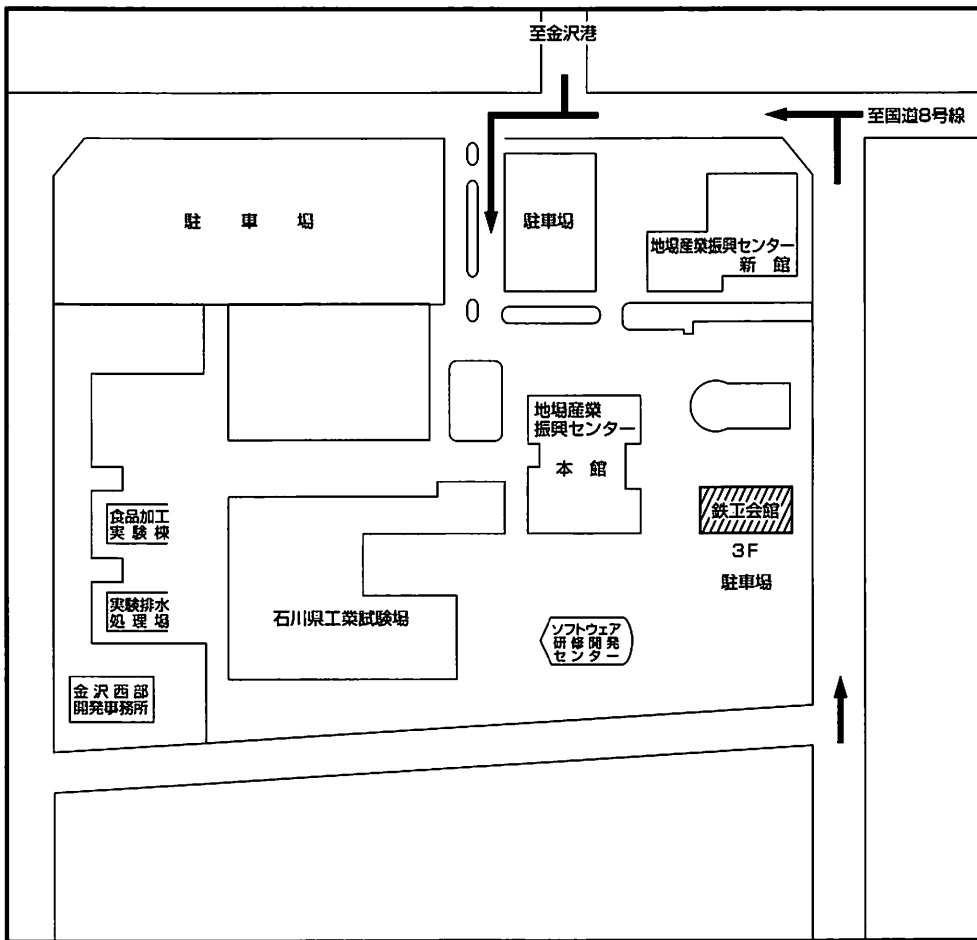


緊張して聞き入る組合員



祝宴での乾杯

《協同組合ユー・エス・ジーのご案内》



交通機関 ■ 北鉄バス／「工業試験場、産業振興センター」行 香林坊(日銀前)始発
 金沢駅西口経由約25分 約1時間間隔で運行 他
 タクシー／金沢駅西口から約5分

あ と が き

異業種共同受注という、日本全国でも例の無いユニークな組織で、30年の長きに渡り活動を続けて来た協同組合ユー・エス・ジー。その長続きの秘訣を、今回の30周年の記念誌発行の編集に携わり、垣間見た気がします。2人、3人で社長自らが機械を操作し、部品の製作をする小さな会社から、決して規模は大きくは有りませんが、日本でも有数の技術を誇り、全国的に名を知られている会社等で組織されています。

アルミ・鉄系鋳物から、各種機械加工、表面処理とトータルで部品製造が可能であり、しかも、これらの多種の製品造りの機械設備関係が、1,000台を越え大企業並みで、従業員数約550名の90%以上が、日常は直接業務を遂行しています。

ユーザーの立場で考えてみれば、大半の部品が製作可能との見方の中で、何かにつけて重宝と考えられるのではないのでしょうか。多品種、少量生産で、更に短納期、価格の安定とユーザーの求めるハードルは、どんどん高く多様化してきています。

以前は、数量も多く、毎月、同じものを製作していれば商売になっていた時代もありましたが、今日では、重要部品の検査成績表、ミルシートの提出を含め、QC工程表、非破壊試験データ等の他に、ROHS指令施行により、環境面での「グリーン調達」の要求も数多く依頼されており品質、価格、納期、環境と管理面の強化が不可欠な時代となりました。品質、納期は当たり前、価格はDOWNで、管理面はUPが、当然のように要求されております。

今後、益々、このような中小企業に対する試練が、数多く出てくる事も予想されます。協同組合ユー・エス・ジーも、事務局は元より、各組合員企業、従業員全員の前向きな姿勢でこの30周年が、40周年、50周年と更に歴史を築いていく起点となるよう努力が必要と痛感しております。今回は、データを事務局で管理できるようグラフ、表を含め、記念誌の全項目の一字、一字をパソコン入力し、いつでも利用出来るように配慮した為、莫大な労力が必要でした。何とか発行にこぎつける事ができ、ホッとしています。

ユーザーの皆様には、カタログ性も含んだこの記念誌を拝読頂き、組合活動の内容、良さを発見して頂ければ幸いです。

最後に、本誌に御寄稿、御協力頂きました各位様に、厚く御礼申し上げます。

事務局長 大橋 靖 弘

組合創立30周年記念誌

発行日 ● 平成18年12月20日
発行人 ● 竹田 信夫
編集責任者 ● 石丸 義雄
編集者 ● 大橋 靖弘
発行 ● 協同組合ユー・エス・ジー
金沢市鞍月2丁目3番地
印刷 ● 吉田紙業株式会社
金沢市神宮寺3-6-23

創立30周年記念誌

協同組合U・S・G